水汲男の傳

六番目大衛騎將牧野備州の水汲何事かゝる仕業
に心知らぬ事なしと兼て家中の者噂仕て備州
耳中へ入り一事之ありて内高木勝州へ中小性使者
人数なりし何事やらん早く上へと申ゝ
彼家来内へ家出せし婦人ありて右の仕方と家来
の内小八郎小姓と密通者ありと申ゝ沒小問合と牧
心由申紙ぬ入り勝州へ意中申ゝ
家来と成出し委細に上へ仕り候ゝ水汲を

並に成出し結中牧除家出せし婦人言伝ゝ
通密と兼て家来備州者小能存ゝる者ゝ噂ゝ
仙安と者小能存ゝる者ゝ噂ゝ其者より水汲小通
ゝ右の中小性
密と能ゝる者ゝ支ゝ外人と申ゝ
密と申ゝ者右の水汲除ゝ中密能ゝ
ゝ仕るゝ斬ゝ首と仰ゝ是ゝ婦人小ゝ初
ゝ家出ゝ内と申ゝ
出て男とゝ申ゝ又牛頭神楽坂ゝ裏店小行居
面時も矢張ゝ所小居ゝ事なし早ゝ人を
尋ゝられも直小知れ人遠ひなしと勝州

方ゝゝ早ゝ尋出さゝい水汲所ハ遠ク江戸感心の除り
支合い高ゝ高木家ゝゝ此ハ考と頼まれしハ一ちとして
中らすと云事なし或時藤井ハ金ゝひろれも
多汲所ハ有かゝるゝれと金ゝ清まゝと命しめ真之
ゝゝ見ゝれとも変ゝうけ江戸菓ゝとをせと人小収ひ
変ぬ毎ハ多汲と言木家ゝを江戸とゝつも中小性一人
附を江戸事ハゝゝ清井ハ菓ゝと持六番所ゝ江戸ハて
ゝ出ハ変の別ハもゝうゝなん先ゝ中小性之深より
水汲所深六番所ハ火消屋敷の所ハて来りし船ハ
ハ出るまゝゝ何とゝやと言れし今日ハ木板ハて頼

の出菓子同ハ屋根ハ出ハ上ゝゝと言やと
ゝ中小性もゝゝ江戸ハ中ハ伝ゝ尋めれ
天狗様ゝゝ時ハ汲ゝゝゝ見ゝゝ
屋敷ゝゝ頼ゝ江戸ハ牧仲家ハ六年奉ゝ
ゝゝ一年ゝ文ゝゝ常ハ金ハ
水汲ハゝゝ清ゝ役ゝ使ハ防ゝ伝ゝ尋めれと
御城ハ天狗様ハハゝゝ彫ハ仕掛ハ佐久ゝ
御城ハ佐久の事ハ第ゝ用捨と頼ゝゝ其内ハ西九
御屋根ハ屋夜ゝゝ人数ハ平ゝ中藤井彫
石小藤ゝゝ右の彫ハ藤井事ハ政軌仲京

いろいろ和文に露たりとした右之和歌家に
秘蔵いたる正宗の刀と見せられんも是は格別の
道具と押しくるさ[illegible]又は文小幕をして
いるい尼内ほの栗焼の試物別にかとやりくるも
取さりしたる[illegible]元小有合せこしぬ山栗焼いさるを
こるお[illegible]ちしかいけり同じ長時の栗焼年の[illegible]げ
ちり出来上りまして正清の者[illegible]のお[illegible]ゆけ
[illegible]の事なりて[illegible]彼の汲武時天狗小かしんと
天狗一統小栗ゴ小ンエ[illegible]けりし時二の腕かい乃
入墨をかしぬ時もて降りくる天狗小かしれと無

中之一曲の噺かりよ

紙和屋敷の怪

文化六年年此事かりしが下谷長者町小紙和屋某之
酒屋けり地振文化二年遠藤佐渡守屋敷へ[illegible]出し
けるに一年後勤しに風と見へくらる欠落又之行て
[illegible]のけやまりかるもやけりて鐘と死そう又い井へ
[illegible]出てもけりけや[illegible]ちんと寄髪けんとも面影[illegible]
宿へ[illegible]と[illegible]親元かくも不く身りんとも見へ[illegible]
けるく其後い尋もせし母親のかなしさやいかかし